

第 27 回 福岡県合同輸血療法委員会報告書

2024 年（令和 6 年）2 月 15 日（木）

2024 年 6 月発行

福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部

福岡県赤十字血液センター

発刊にあたって

2024年2月15日(木)に開催された第27回福岡県合同輸血療法委員会の報告書を発刊することになりました。

福岡県合同輸血療法委員会活動は、新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年度は開催を取りやめ、令和3年度はWEB会議にて開催と、内容の大幅な変更を余儀なくされましたが、令和5年度より従来の集合形式での開催を再開しました。長年にわたり代表世話人をお務めになった熊川みどり先生が令和5年4月に福岡県赤十字血液センターに異動され、今回から私が後任として代表世話人を務めることとなりました。

新型コロナウイルス感染症は輸血医療にも大きな影響を与えています。職場や学校などへの献血バスの出張が難しくなったため、常設の採血所での献血によって、何とか必要量の血液製剤・原料血漿を確保している状況です。供給量が横ばいである一方で血液製剤・血漿分画製剤の需要は年々増加しています。特に免疫グロブリン製剤はここ数年で需要が急増しており、その安定供給と適正使用は喫緊の課題です。

免疫グロブリン製剤の需要増加の一因は複数の効能が追加されたことにありますが、特に慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)の維持療法においては患者が長期に渡って継続的に免疫グロブリン製剤の投与を受けるため、需要増加の主因と考えられます。そこで今回は特別講演として九州大学大学院医学研究院神経内科教室の緒方英紀先生をお招きし、「神経疾患に対する免疫グロブリン療法」をテーマにご講演いただきました。CIDPを含めて神経難病の治療に何故免疫グロブリン製剤が有効なのか、免疫グロブリン製剤適正使用を推進する一助となるご講演だったと思います。

なお例年通り血液製剤使用適正化に関するアンケート集計結果も掲載しておりますので、ぜひご一読いただき自施設のみならず福岡県全体の輸血医療を俯瞰し、安全で適正な輸血医療のさらなる推進にお役立ていただければと思います。

最後になりましたが、今後とも福岡県合同輸血療法委員会活動へのご協力の程、何卒宜しく願い申し上げます。

2024年6月

福岡県合同輸血療法委員会を代表して
社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 輸血科診療部長 大崎 浩一

目 次

1. 日程・場所	4		
2. 参加医療機関等	5		
3. 司会挨拶	7		
4. 開会挨拶	福岡県合同輸血療法委員会代表世話人 (聖マリア病院 輸血科 診療部長)	大崎 浩一	7
5. 挨拶	福岡県保健医療介護部 医監	佐野 正	8
	福岡県赤十字血液センター 所長	熊川 みどり	9
6. 第1部：活動報告				
	テーマ：「福岡県の輸血を取り巻く現状」			
演者	(1)「輸血部医師から見る輸血医療とその課題」		10
	産業医科大学病院 臨床検査・輸血部	山口 絢子		
	(2)「公立八女総合病院における在宅輸血の現状」		15
	公立八女総合病院 検査科	深堀 道俊		
	(3)「福岡県合同輸血療法委員会 学会認定看護師部会の活動」		20
	聖マリア病院 病床管理室	梅木 智美		
	(4)「福岡県における血液製剤供給の現状」		27
	福岡県赤十字血液センター 学術情報・供給課	原田 滉		
7. 第2部：報告				
	「血液製剤の使用適正化に関するアンケート」集計結果報告		32
演者	聖マリア病院 輸血科	大崎 浩一		
8. 第3部：講演				
	「神経疾患に対する免疫グロブリン療法」		42
演者	九州大学大学院医学研究院 神経内科学教室	緒方 英紀		
9. 閉会挨拶			49
参考資料			50